

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主 な 取 組 内 容		取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価
確かな学力	A	①組織的な取組で学力向上を図る。 ②授業で「わかる、できる」という自己有用感を感じさせる。 ③基礎的知識、技能を習得させ、それを活用する力を養う。 ④家庭との連携により、家庭学習の充実を図る。	①授業改善のために校内研修を充実させ、授業力を向上させる。 ②授業スタンダードの効果的な実践を図る。 ③「授業づくり部会」を中心とした基礎・基本の定着と応用力向上のために実践を図る。 ④家庭訪問や広報活動の充実により、家庭と連携して家庭学習の質と量を高めていく。	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	○研究主任及び「授業づくり部会」主導により組織的な授業改善を図っていく。 ○アンケートの活用により、課題克服のための実践の共有化を図る。	①授業スタンダードの実践における自己評価100% ②授業評価アンケート各項目3.5以上 ③学期末に次学期学力向上の取組を確認する。	①授業スタンダードの実践における自己評価100%。 ■スタンダードの質の向上。 ②授業評価アンケート平均3.55。 ■「自分の意見発表」「家庭学習に繋がる指導」	①「効果的なねらいの提示」「主体的な学び」「振り返りの定着」を重点項目に位置づけ、さらなるスタンダードの定着を図る。 ②アンケート評価項目の見直しとより改善につなげる結果の集約を行う。	教職員の異動に伴う学校全体の教育体制、指導方針の更なる向上への充実を引き続きお願いいたします。（短期異動に教諭、講師等での生徒間による相互的配慮の改善をお願いしたい。） 評価指標に対する達成状況での「授業が分かる」肯定的評価での向上に対し、これまで以上に授業スタンダードにおける改善対策を含め、取り組みの資質向上を図ることが必須であり、個々のスキルアップに繋げていただきたいと思います。 家庭学習向上（予習・復習、時間等）には引き続き家庭生活7ヶ条等に取り組んで頂きたいと思	A
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	①年3回の全校授業研究の実施と年1回の全授業者による公開授業及び振り返りの実施。 ②自己評価及び他者評価により、授業スタンダードを定着させ、さらに質の向上を図る。	①市意識実態調査(7月・11月)の「授業がわかる」肯定的評価が84(21名)%以上 ②授業者による公開授業及び振り返りの実施率100パーセント	①「授業がわかる」肯定的評価92%(23名) ■わかる→学力向上につなげる ②公開授業及び振り返りの実施率100% ■質の向上(講師招聘等)	①授業の終盤に必ず「振り返り」の場を設定し、「わかる」を学力向上につなげていく。 ②講師招聘による授業研を年3回実施し、「スタンダード」の質を高め授業力の向上を図り、生徒を主体とした授業づくりを行う。		
豊かな心	A	①福祉教育、体験学習を基盤とした「道徳実践力」の向上を図る。 ②生徒会を中心とした行事の充実を図り、生徒の主体性を育む。 ③よりよい人間関係の構築する。	①地域での体験活動の効果的な取組みやさらなる工夫による実施を図る。 ②話し合い活動の充実や発表の場を効果的に仕組むことにより主体性を育む。 ③お互いが認め合い、褒め合う環境を設定する。	学校全体で予習・復習(宿題)の質と量の高める取組	①「家庭学習の手引」「学ぶ眼」を活用し、主体的な学びの促進を図る。 ②授業のまとめで、家庭学習に繋がる指導を行う。 ③肯定的評価により意欲を高める指導を行う。	①市意識実態調査(7月・11月)「学習時間」30分以上の生徒→79%(19名)以上 ②学校評価アンケート(11月)「毎日家で宿題や予習をしている」生徒割合70%(17名)以上	①「学習時間」30分以上84%(21名) ■目標設定の向上 ②「毎日家で宿題や予習をしている」76%(19名) ■課題がある生徒への指導	①1時間以上の数値を評価指標に設定する。「家庭生活7ヶ条」「学ぶ眼」を活用し、内容を説明する機会を工夫する。 ②授業の終わりに家ですべきことを明確にする。また、テスト発表期間中の加力等個別指導も充実させる。	学校行事等での生徒、保護者、学校、地域連携を基盤に道徳・人権教育への取り組みも行い、より効果的に行なっていただきたいと思います。 学校内での生徒相互の中で話し合い、認め合い、褒め合いなど一人ひとりが溶け込みやすい学級、学校、環境づくり向上が必要と思います。 プレゼンテーション評価が高いのでこれまで以上の向上の取り組みをお願いします。	A
				①体験活動に道徳教育や人権教育をリンクさせ、計画や取組から実施、そして振り返りまでストーリー性を持って指導、支援にあたる。 ②特別活動や道徳の授業、各教科の授業においても、グループでの学び合いや発表の場を効果的に仕組み、主体性を育む。 ③集会や全校行事、各学年での活動等で、生徒が相互評価できる場面を多く設定する。また、掲示物や通信等で取り組んだ内容や学んだ内容を効果的に振り返れるようする。		①学校評価アンケート「学校が楽しい」肯定的評価84%(21名)以上 ②道徳アンケート(4月・10月)「人間関係・規範意識」肯定的評価92%(23名)以上。「道徳の時間」肯定的評価70%以上。 ③Q-Uアンケート(6月・11月)「学校生活満足群」58%(14名)以上。「学校生活不満足群」17%(4名)以内	①肯定的評価84%(21名) ■100%をめざす ②道徳アンケート「人間関係・規範意識」→93.3%(平均23名強) 「道徳の時間」肯定的意見→81.3% ③Q-Uアンケート「学校生活満足群」79%(19名) 「学校生活不満足群」→8%(2名) ■不満足群0%をめざす ○人権・道徳参観日実施	①学校行事をより生徒を主体とした内容に仕組み、生徒が多く活躍できる場を設定する。取り組みと振り返りの充実を図る。 ②道徳参観日や道徳の授業を充実させると同時に、肯定的評価を取り入れ、自尊感情を育み、「学びや体験」を個々の将来につなげる。 ③個人面談や話し合い活動を意識的・効果的に仕組み、一人ひとりの長所が活かせる学級づくり・学校づくりに努める。 ○プレゼンテーション力の向上		
健やかな体	A	①運動習慣の定着、体力向上の意識化を図る。 ②体育的行事や体育の授業を通じて、主体的に運動を行う意欲を高める。 ③部活動の充実を図り、体力面や精神面の向上を図る。	①基本的な生活リズムの定着が運動能力や体力の向上、健康な体作りに繋がることを生徒、保護者にも啓発していく。 ②発達段階に応じ、適切な評価を行い、体力、運動能力を高める体育的行事や体育の授業を工夫する。	①「学ぶ眼」や「保健だより」を定期的に配布する。その際、内容の説明や依頼事項を生徒や保護者に行う。また、校内でも掲示することで意識を高める。 ②体育の授業での授業研究の実施や運動会、水泳大会で生徒が主体的に取り組める指導・支援を行い、満足感を与える。 ③顧問会や部活動キャプテン会の実施により生徒が主体的に部活動を運営できる場を意図的に設定し、評価していく。また、外部コーチとの連携や近隣の学校との合同練習も行い、意欲の向上を図る。		①生活調査アンケート(6時間以上の睡眠)90%(22名)以上 ②道徳アンケート「生活習慣」定着62%以上。 ③市意識実態調査(7月・11月)テレビ・スマホ・ゲームの時間→2時間未満の割合70%(17名)以上 ④学校評価アンケート「部活動が充実している」肯定的評価が76%(19名)以上。 ⑤授業評価アンケート「体育の授業が楽しい」肯定的評価88%(22名)以上。	①6時間以上の睡眠100% ②「生活習慣」定着72% ③道徳参観日の実施 ③テレビ・スマホ・ゲームの時間2時間未満の割合68% ★家庭生活7カ条の活用 ④「部活動の充実」72% ④人権参観日の実施 テーマ:ネット・携帯の危険 ⑤体育の授業が楽しい 肯定的評価88% ○生徒の体験活動・運動会参加率100%	①睡眠時間の確保と同時に、効果的な睡眠という質についても意識させていく。 ③凡事徹底・意識づけ→適切な評価を行っていく。 ③小中及び家庭との連携を図ると同時に、研修や講演会も行う。 ④定期的な部会の実施や集会の活用。外部講師との連携。 ⑤体育的行事と体育の授業や部活動、そして体験活動を総合的な学習の時間や特別活動と繋いでいく。	生活習慣での基本的な生活リズムについては家庭、学校等が連携をし、多面的な改善を行なうことにより、今後の体育的行事、体育の授業、部活動等の総合的な育成に邁進していただきたいと思います。	A
				①生徒が郷土を愛し、自分を愛することができるよう体験的な学びを充実していく。そのために、自ら考え、自ら行動できるよう、意識付けや課題を与える。 ②年3回の地域支援本部の開催で情報公開及び学校行事への参画の推進を図る。また、年数回の推進委員会の開催でコミュニティ・スクール導入に向けた体制づくりを進める。 ③保小中P合同講演会の実施や、保小中における発達に応じた家庭生活での心得や、英語教育の推進を図っていく。		①キャリアアンケート(6月・12月)キャリアプランニング能力3.3以上、郷土愛3.5、自尊感情3.0以上。 ②参観日の保護者出席率で平均68%(17名)以上。 ③保護者アンケート「学校は情報提供に努めているか」肯定的評価76%(19名)以上。 ④地域支援本部3回実施。 ⑤発達段階に応じた「家庭生活の心得」の作成及び配布。	①キャリアプランニング能力3.17自尊感情3.2郷土愛3.61 ②参観日の保護者出席率68%(17名) ③学期に一度日曜参観日 ④学年PTA・運動会→90% ③「情報提供」→80% ④学校支援地域本部年間3回 設置推進委員会7回 ⑤家庭生活7ヶ条訂正配布 ○保小中子育て講演会90名	①地域とともに歩む学校づくりのさらなる充実を図る。「湖水祭り」「運動会」「火鎮祭」「生きがい教室」。 ②来校しやすい日程・内容の精選。 ③2週間に一度「学級だより」を配布し、生徒の様子や行事の取り組み等を伝える。また、ホームページを充実させることで学校を身近に感じていただく。 ④コミュニティ・スクール設置委員会と学校支援地域本部の役割の明確化を図る。29年度のスタートに向けての準備を保護者・地域と行う。		
保護者地域との連携	A	①地域貢献活動をキャリア教育につなぎ、自己理解や解決能力を養う。 ②コミュニティ・スクール導入に向けた「地域と共に歩む学校づくり」の推進。 ③保小中の連携による保護者、地域を巻き込んだ教育実践を推進する。	①付けるべき力や目標を明確にした行事を仕組む。 ②推進委員会及び地域支援本部の役割の明確化及び地域参画行事の充実を図る。 ③保小中一貫教育に向けた研究及び取組を推進する。			①キャリアアンケート(6月・12月)キャリアプランニング能力3.3以上、郷土愛3.5、自尊感情3.0以上。 ②参観日の保護者出席率で平均68%(17名)以上。 ③保護者アンケート「学校は情報提供に努めているか」肯定的評価76%(19名)以上。 ④地域支援本部3回実施。 ⑤発達段階に応じた「家庭生活の心得」の作成及び配布。	①キャリアプランニング能力3.17自尊感情3.2郷土愛3.61 ②参観日の保護者出席率68%(17名) ③学期に一度日曜参観日 ④学年PTA・運動会→90% ③「情報提供」→80% ④学校支援地域本部年間3回 設置推進委員会7回 ⑤家庭生活7ヶ条訂正配布 ○保小中子育て講演会90名	①地域とともに歩む学校づくりのさらなる充実を図る。「湖水祭り」「運動会」「火鎮祭」「生きがい教室」。 ②来校しやすい日程・内容の精選。 ③2週間に一度「学級だより」を配布し、生徒の様子や行事の取り組み等を伝える。また、ホームページを充実させることで学校を身近に感じていただく。 ④コミュニティ・スクール設置委員会と学校支援地域本部の役割の明確化を図る。29年度のスタートに向けての準備を保護者・地域と行う。	今後、少子高齢化が進む中、これまで以上に地域と小規模校独自の取り組みを推奨することで郷土(地域)、自身等への思いとなり豊かな心にもリンクされると思います。 その為には、地域支援本部の開催による情報公開や学校行事への参画を図りつつ保護者、学校、地域連携の強化を図ることが必須であると思います。	A
						①欠席日数が、1学期末10日以上、2学期末20日以上、3学期末30日以上 ②支援が必要な生徒に必要な教育相談を実施する。 ③特別支援教育をテーマにした校内研修を年3回実施する。 ④特別支援学級生徒アンケート(11月)「学校が楽しい」肯定的評価100%。	①欠席日数2学期末20日以上 ②教育相談実施なし ③特別支援教育をテーマにした校内研及び校内支援委員会の実施(3回) ④特別支援学級生徒アンケート「学校が楽しい」肯定的評価100% ■ユニバーサルデザインを取り入れた授業の研究	①SC・SSWと連携し、不登校を作らない。 ②実施が必要ななら、早めに教育相談を実施する。そして結果を改善に繋げる。 ③計画的な校内支援委員会及び校内研修の実施(各3回)。また、学びを教職員が共有し、組織的な実践を行う。 ④特別支援学級の生徒のみならず、支援が必要な生徒にとっても過ごしやすい授業・環境づくり・集団づくりに努める。		
特別支援教育	A	①特別支援学級に在籍する生徒へ効果的な支援を行う。 ②通常学級に在籍する支援が必要な生徒への効果的な手立てや支援を行う。 ③SC・SSWとの連携を図る。	①校内支援委員会の計画的な実施及び支援シートの作成及び活用。 ②特別支援をテーマにした校内研修を実施し、教職員の資質・指導力の向上を図る。 ③SC・SSWと連携し、支援体制を確立する。	①年3回の物部の支援会の実施により、支援シートの効果的な活用方策を探る。 ②講師招聘により特別支援教育をテーマにした校内研修を実施し、ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりについての研究をすすめる。 ③SC・SSWの訪問日に細やかな支援方策の打合せを行い、教育相談や生徒への対応方策を具体的に検討し、職員でベクトルを合わせた実践をする。		①欠席日数が、1学期末10日以上、2学期末20日以上、3学期末30日以上 ②支援が必要な生徒に必要な教育相談を実施する。 ③特別支援教育をテーマにした校内研修を年3回実施する。 ④特別支援学級生徒アンケート(11月)「学校が楽しい」肯定的評価100%。	①欠席日数2学期末20日以上 ②教育相談実施なし ③特別支援教育をテーマにした校内研及び校内支援委員会の実施(3回) ④特別支援学級生徒アンケート「学校が楽しい」肯定的評価100% ■ユニバーサルデザインを取り入れた授業の研究	①SC・SSWと連携し、不登校を作らない。 ②実施が必要ななら、早めに教育相談を実施する。そして結果を改善に繋げる。 ③計画的な校内支援委員会及び校内研修の実施(各3回)。また、学びを教職員が共有し、組織的な実践を行う。 ④特別支援学級の生徒のみならず、支援が必要な生徒にとっても過ごしやすい授業・環境づくり・集団づくりに努める。	校内支援委員会、研修の実施について、これまで同様のご尽力と迅速かつ細やかなケアの継続をお願いします。 学校内が明るく過ごしやすい思い出に残るような場所づくりをお願いします。	A